

平成21年11月30日

中小企業とおどきは...

平成20年6月30日現在の法人数は300万3千社でこのうち国税局所轄法人は354千社(1.1%)です。申告納税額 13兆7,036億円のうち国税局所管法人は9兆1,396億円(66.7%)納税しています。つまり、1.1%の大企業が66.7%納税しているわけです。しかし、全労働者のうち中小企業に勤めている人は7割はいます。中小企業とおどきは大きく存るとつぶれると言われています。

大企業は国家国民のために多額の納税をしてもいいわけは国の財政が成り立ちませんが、中小企業の社会的使命は、上場することではなく、多額の納税をすることでもなく、まして社長の個人財産を増やすことでもありません。雇用を維持することではないでしょうか。三越が1,000人の希望退職を募っています。対象は40才~59才の社員で家庭が一番お金のイかる年代の人達です。中小企業でも多くのお客様が売上減で苦しんでいます。今迄は製造業の落ち込みが激しく少々は回復してきましたが去年の9月以前の3割~5割位減ったままです。サービス業は大幅な落ち込みはなかったのですが、少いつつ売上が減少し、下げが止まりません。売上年計表や粗利益年計表が下降傾向の続き、中小企業でも社員に辞めてもらうたり、給与賞与を減額する会社が増えています。当然社員の給与賞与を減額する前に社長、役員の大規模な役員報酬の減額はしています。多くの会社が雇用を維持するのに必死です。

中小企業が雇用を維持するためにつぶれない経営をするコツは損益計算書中心の経営から貸借対照表中心の経営へ方向転換することではないでしょうか。私はこの仕事を始めて今年で27年目ですが、中小企業で景気がよかつたと思えるのは10年のうち2年か3年で、あとの7年は悪いかとひっきり悪いかです。今がとひっきり悪い時です。ですが、売上はあまり当てになりません。拡大ばかりの計画をたてると、先にお金が出ていきましかつ計画どおりに売上があがらなるとすぐ資金不足になります。損益計算書は全社員でつくるものですが、貸借対照表は社長1人でつくります。経営で大事なものは、貸借対照表です。貸借対照表には社長がこれまでどのような経営をしてきたかが凝縮されています。美しいB/Sと美しくないB/Sがあります。

美しいB/SとはB/Sの左側が筋肉質の男のイメージです。固定資産が少なく現金の多い会社です。B/Sの右側はお尻の大きい女性のイメージです。支払手形、借入金、自己資本が少なくて多額の現金が多い会社です。このお尻のイメージのB/Sをこわく作り上げることはないでしょうか。B/Sのムダをなくし美しいB/Sを作りあげるためには、中小企業は、拡大より充実です。売上より利益に重点を置き、店舗等を増やすより、一店一店の利益をあげていく。B/Sの左側を少なくし、経費の見直しを細かくする。例えは処分できる資産はなりか、家賃は下げられないか、保証金は返却してもらえないか、不確定な売上拡大より、確定なことを一つ一つ実行してB/Sを改善していくことが中小企業が実行すべき最重点項目ではないでしょうか。中小企業は大きく存るより、少いつつ成長してつぶれないことが大事です。社員を守るには、大企業より中小企業であると私は思っています。

古田 満